



花笠まつり



大花火大会



日本一の
芋煮会
フェスティバル



山形国際
ドキュメンタリー
映画祭



↑市役所の階段

ミニ知識 31

大鍋には3万食の芋煮

山形の秋の風物詩「日本一の芋煮会フェスティバル」の様子が、毎年TV全国ニュースで放映されます。直径6mの「鍋太郎」と名付けられた大鍋から大型重機で取り出され、煮えた芋煮を仲間とおいしく食している様子です。

昔から、山形の家族や友達、職場の間では、馬見ヶ崎川の河川敷などに大石を積んでカマドをつくり、里芋と牛肉などを薪で煮る野外料理を楽しんでいました。河原で芋煮会を開いた始まりなどについていろいろな説がありますが、この風物詩を山形のフェスティバルとして、山形商工会議所らが1989（平成元）年に馬見ヶ崎川の双月橋付近で開き、全国にも紹介されるようになりました。

芋煮の食材や味付けには、県内でも地域によって次のような違いがあり、山形のは最もシンプルです。

- ・山形地方…牛肉・里芋・ねぎ・コンニャク・醤油味
- ・庄内地方…豚肉・里芋・ねぎ・コンニャク・厚揚げ・味噌味
- ・置賜地方…牛肉・里芋・ねぎ・コンニャク・とうふ・醤油味
- ・最上地方…山形と庄内地方の良さを生かし、豚肉に醤油味

この他、舞茸、麩、大根などを入れる所もあり、地域ごとの味覚風土が生き残っているのでしょう。

大鍋は3万食分、砂糖以外の食材は全て地産地消でまかなっています。更に近年、残った汁にカレーを入れた「芋煮カレーうどん」を楽しむ人も増えています。

3 市民が創りあげる新しい祭り

ヤッショ マカショ 50年

8月5日から「ヤッショ マカショ シャンシャン…」と艶やかな衣装と紅花をあしらった笠を手にした踊り手が、花笠音頭に合わせて十日町・本町・七日町の大通り1.2kmを3日間踊ります。

この祭りは、1963（昭和38）年、蔵王開山1250年を記念した「蔵王夏まつり」のイベントのひとつとして「花笠音頭パレード」として始まりました。2年後に「山形県を象徴する新しい華やかなイベントを」という経済界の提唱で、今日の「山形花笠まつり」となり、現在は東北四大祭りのひとつになっています。

パレード用に振り付けられた正調花笠踊りの群舞に加え、質の高さを前提にした四方山会よもやまいの笠回しや創作踊りなどの多彩な踊りが混じり合っています。参加団体は120もの職場や仲間仲間で構成され、踊り手数は1万2千人と増えています。50年の歩みの中で、市民が創りあげる山形の代表的な夏祭りです。



花笠まつりや日本一の芋煮会など新しいイベントについて調べましょう。

夜空に舞う2万発

山形大花火大会は山形青年会議所が中心となり、市民と企業の募金活動で、1979（昭和54）年、25年ぶりに復活しました。2万発の大輪の花が夜空を焦がします。

当初は小白川町の馬見ヶ崎川畔で行われていましたが、周りの山が火災になる危険を避けるため、現在は須川そりたの反田橋付近で8月14日に開催されています。毎年4万人の観客が2時間の光のショーに酔いしれます。

映画で国際交流

「山形国際ドキュメント映画祭」は、1989（平成元）年から隔年で、国内とアジアを中心にした映画作品の上映とシンポジウムなどを行っています。近年は東欧などの作品にも拡がっています。出品作品は200本を越えレベルも高くなり、映画祭には多くの外国人の方が訪れ、国際色豊かに映画監督や関係者が親しく交流し、市民ボランティアの人たちが活躍しています。